



Syslog

- [Syslog \(1 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Manager GUI を使用した Syslog の設定 \(2 ページ\)](#)

Syslog

Cisco UCS Manager はシステム ログ、つまり `syslog` メッセージを生成して Cisco UCS Manager システム内で発生した次のインシデントを記録します。

- 定期的なシステム操作
- 障害およびエラー
- 重大なおよび緊急な事態

`syslog` のエントリには、障害、イベント、監査の 3 種類があります。

各 `syslog` メッセージは、メッセージを生成した Cisco UCS Manager プロセスを特定し、発生したエラーまたはアクションの簡単な説明が提供されます。`syslog` は、定期的なトラブルシューティングやインシデントへの対処および、管理にも役立ちます。

Cisco UCS Manager は、`syslog` メッセージを内部的に収集し、記録します。`syslog` デーモンを実行している外部 `syslog` サーバにこれらを送信できます。中央の `syslog` サーバへロギングは、ログおよびアラートの集約に役立ちます。モニタされる `syslog` メッセージには、DIMM の問題、装置の障害、熱の問題、電圧の障害、電源の問題、高可用性 (HA) クラスタの問題、およびリンクの障害が含まれます。



- (注) FSM の障害、しきい値の障害、および未解決のポリシー イベントは、`syslog` サーバに送信されません。ただし、しきい値障害イベントに対して SNMP トラップが生成されます。

`Syslog` メッセージには、イベントコードおよび障害コードが含まれています。`Syslog` メッセージをモニタするために、`Syslog` メッセージフィルタを定義できます。これらのフィルタは、選択した基準に基づいて `syslog` メッセージを解析できます。フィルタを定義するために、次の条件を使用できます。

- イベントコード別または障害コード別：モニタする特定のコードだけを含めるための解析ルールを使ったフィルタを定義します。これらの条件に一致しないメッセージは廃棄されます。
- シビラティ（重大度）別：特定のシビラティ（重大度）を持つ Syslog メッセージをモニタするための解析ルールを使ったフィルタを定義します。syslog のシビラティ（重大度）は OS の機能に応じた個別指定が可能で、簡易的な概要からデバッグ用の詳細情報に至るまでのメッセージのロギングと表示が行えます。

シスコデバイスでは、これらのログメッセージを UNIX スタイルの syslog サービスに送信できます。syslog サービスは、簡単なコンフィギュレーションファイルに従って、メッセージを受信してからファイルに保存するか、出力します。この形式のロギングは、ログの保護された長期的な保存場所を提供できるので、シスコデバイスでの最適な方法です。

Cisco UCS Manager GUI を使用した Syslog の設定

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション] ペインで、[管理者] をクリックします。
- ステップ 2 [すべて] > [障害、イベント、および監査ログ] を展開します。
- ステップ 3 [Syslog] をクリックします。
- ステップ 4 [Local Destinations] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[コンソール (Console)] セクション	
[管理状態 (Admin State)] フィールド	<p>Cisco UCS でコンソールに syslog メッセージを表示するかどうかを指定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : Syslog メッセージはコンソールに表示され、ログに追加されます。 • [Disabled] : Syslog メッセージはログに追加されますが、コンソールには表示されません。
[Level] フィールド	<p>このオプションが [Enabled] である場合、表示する最も低いメッセージレベルを選択します。Cisco UCS はコンソールのそのレベル以上のメッセージを表示します。レベルは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergencies) • アラート (Alerts) • クリティカル (Critical)

名前	説明
[モニタ (Monitor)] セクション	
[管理状態 (Admin State)] フィールド	<p>Cisco UCSでモニタに syslog メッセージを表示するかどうかを指定します。この状態は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : Syslog メッセージはモニタに表示され、ログに追加されます。 • [Disabled] : Syslog メッセージはログに追加されますが、モニタには表示されません。 <p>[管理状態 (Admin State)]が有効になっている場合は、Cisco UCS Manager GUIにこのセクションの残りのフィールドが表示されます。</p>
[Level] ドロップダウンリスト	<p>このオプションが [Enabled] である場合、表示する最も低いメッセージレベルを選択します。モニタにはそのレベル以上のメッセージが表示されます。レベルは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergencies) • アラート (Alerts) • クリティカル (Critical) • [Errors] • [Warnings] • [Notifications] • [Information] • [Debugging]
[File] セクション	
[管理状態 (Admin State)] フィールド	<p>Cisco UCSがファブリック インターコネクトのシステム ログにメッセージを保存するかどうかを指定します。この状態は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Enabled] : メッセージはログ ファイルに保存されます。 • [Disabled] : メッセージは保存されません。 <p>[管理状態 (Admin State)]が有効になっている場合は、Cisco UCS Manager GUIにこのセクションの残りのフィールドが表示されます。</p>

名前	説明
[レベル (Level)] ドロップダウンリスト	<p>システムに保存するメッセージの最低レベルを選択します。Cisco UCS は、ファブリック インターコネクトのファイル内に、そのレベル以上のメッセージを保存します。レベルは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergencies) • アラート (Alerts) • クリティカル (Critical) • [Errors] • [Warnings] • [Notifications] • [Information] • [Debugging]
[Name] フィールド	<p>メッセージが記録されるファイルの名前。</p> <p>名前には 16 文字以内の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) が使用できます。デフォルトの名前は「messages」です。</p>
[Size] フィールド	<p>ファイルの可能最大サイズ (バイト単位)。ファイルがこのサイズを超えると、Cisco UCS Managerによって最も古いメッセージから最新メッセージへの上書きが開始されます。</p> <p>4096 ~ 4194304 の整数を入力します。</p>

ステップ 5 [Remote Destinations] 領域で、次のフィールドに情報を入力し、Cisco UCSコンポーネントにより生成されたメッセージを保存できる最大3つの外部ログを設定します。

名前	説明
[管理状態 (Admin State)] フィールド	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 有効 • 無効 <p>[管理状態 (Admin State)] が有効になっている場合は、Cisco UCS Manager GUIにこのセクションの残りのフィールドが表示されます。</p>

名前	説明
[レベル (Level)] ドロップダウンリスト	<p>システムに保存するメッセージの最低レベルを選択します。リモートファイルにそのレベル以上のメッセージが保存されます。レベルは次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergencies) • アラート (Alerts) • クリティカル (Critical) • [Errors] • [Warnings] • [Notifications] • [Information] • [Debugging]
[Hostname] フィールド	<p>リモート ログ ファイルが存在するホスト名または IP アドレス。</p> <p>(注) IPv4 や IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNSサーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、または DNS 管理が [ローカル (local)] に設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [グローバル (global)] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p>
[Facility] ドロップダウンリスト	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • local0 • local1 • local2 • local3 • local4 • local5 • local6 • local7

ステップ 6 [Local Sources] エリアで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[障害管理状態 (Faults Admin State)] フィールド	このフィールドが [Enabled] の場合、Cisco UCS はすべてのシステム障害をログに記録します。
[Audits Admin State] フィールド	このフィールドが [Enabled] の場合、Cisco UCS はすべての監査ログ イベントをログに記録します。
[Events Admin State] フィールド	このフィールドが [Enabled] の場合、Cisco UCS はすべてのシステム イベントをログに記録します。

ステップ 7 **[Save Changes]** をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。